

たまねぎ技術情報No. 2

越年罹病株（べと病）に関する警戒情報

村内外の一部の圃場において越年罹病株（べと病）が散見されております。現在は一部圃場での発生ですが、今後発生の拡大も懸念される事や、二次感染が予想される事から以下を参考に各自圃場の観察、薬剤散布、病株の抜き取りに努めてください。

○越年罹病株（べと病）

秋に苗床の感染や、定植後圃場にて排水不良等の原因で感染する。感染し越冬した株は4月頃気温の上昇と共に発病し、株全体が黄化湾曲、生育遅延、白や灰色の胞子を大量に形成する。ここから飛散した胞子が健全な株に伝染して、二次感染を起こす。越年罹病株が10a当たり3株以上あるとまん延に十分な胞子の量を形成する為、薬剤防除、抜き取りを徹底する。



越年罹病株

※見つけ次第営農支援課にご相談ください

薬材名	適用	回数	備考
リドミル ゴールドMZ	べと病 白色疫病	3回以内	1,000倍希釈液を100L/10aの割合で散布。
(展着剤) アプローチ ニーズ	—	—	1,000倍希釈液を100L/10aの割合で散布。

※リドミルゴールドMZとジマンダイセン水和剤は共通の成分（マンゼブ）を含む為、使用回数は両農薬併せて5回以内。

平成30年4月25日に行った生育調査の結果は2圃場の平均で草丈12.5cm、葉鞘径5.3mm、葉数2.9葉でした。今後気温の上昇と共に成長期を迎えますので、各圃場病害虫の観察に努めてください。